

道徳

雑誌名	研究紀要 / 金沢大学附属中学校
号	61
ページ	144-149
発行年	2019-02-28
URL	http://doi.org/10.24517/00055817



特別の教科 道徳

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

本校では、学校教育目標「自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。」の基に道徳教育の重点目標を「自分を律しつつ、自分に関わる人の思いに気付き、思いやりの心を持ち、他者との相互理解を図りながら、よりよい人間関係を築いて共に生きていこうとする態度を育てる。」としている。

平成28年度まで3年間にわたってESDの実践研究を行ってきた。ESDの実践研究は道徳の目標にある「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」につながっていると考えられる。様々な実践の結果、生徒たちの振り返りやアンケートから、各教科等で学習した内容と道徳的な判断力や心情を関連させて考える力が身に付いていると捉えることができた。

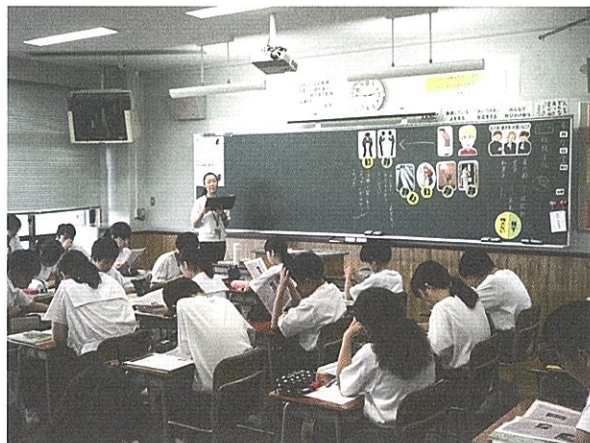
今年度は「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発ーグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指してー」という研究主題の基に取り組んでいる。「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」、「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」の内容項目を教育課程の中で重点的に位置付けている。各学年で共通する教材で実践研究を行いながら、総合的な学習の時間や学校行事等と関連させ、教科等横断的なカリキュラムの開発を目指して取り組んでいる。それらの学習を通して、日本人としての美德やよさを生かし、グローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力を育み、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てたい。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

「考え、議論する道徳」を目指して、生徒の姿を教師が的確に捉えられるように今年度から全校共通で振り返り用紙『心のあしあと』を用い、授業ごとに記録を取ることにした。四つの項目において、あてはまるのかあてはまらないのかを四段階で表す欄と考えたことや感じたことをメモする欄を設けた。項目は「自分の考えや意見が持てた」、「友達の様々な考えや意見を知れた」、「自分の考えが深まった」、「自分の考えが変化した」とした。『心のあしあと』は教師の授業改善という点からも効果的だと考えている。

伝統文化教育に関わっては二つの内容項目に全学年で取り組んだ。地域社会に尽くし、生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちを育み、郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようという意識を高めていくこと、日本人として我が国への親しみや愛着の情を深め、他国と自国の関わりについて考え、日本人としての自覚をもって新しい文化の創造と社会の発展に貢献し得る能力や態度を養っていくことを目標としている。それらがグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成にも関わると考えている。



(2) 関連・連携を図った教科等について

道徳教育としては、全体計画と年間指導計画を作成し、学年ごと、教科ごとの関連を図り、生徒指導や教育相談、学校行事等とも連携して取り組んでいる。

一年生は、英語科の授業で日本の日常生活、学校生活を海外に紹介する活動を行った。また、技術・家庭科では日本に古くから伝わる食事の作法などについて学んだ。それらの学習と関連付けて、石川県教育委員会が発行している「ふるさとがはぐくむ道徳いしかわ」にある「いしかわとISHIKAWA」を用いて、授業実践を行った。本題材を通して、郷土の伝統と文化を大切にし、地域社会の一員としての自覚をもって、郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする態度を養うことをねらいとした。また、育成したい資質・能力としては「③文化の伝承・創造への主体性」とした。授業では心情円盤を用い、自分の気持ちの変化や生徒の多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力なども育むことができるように工夫した。

○『心のあしあと』より

- ・石川県にはいまいちばつとしない、ただただ静かな文化しかないような気がしていたけれど、石川県には石川の良いところがあるから、それを生かしたいと思った。
- ・私自身もあまり伝統文化について知らないところがあったとわかったし、もっと石川県について知りたいと思った。
- ・打ち水は確かに地味だけれど、美しいと思った。これからも残したい。
- ・改めて日本人の性格について考えることで、ただ、消極的なのではなく、その分、勤勉だったりというプラスの面もあるということが分かった。

二年生は、社会科で世界の各地域の特徴を学んだ上で、世界の中で日本はどのような特徴があるのかを、自然環境や産業などの面から見る学習をしたり、音楽科で歌舞伎やオペラといった日本の伝統文化と世界の伝統文化を比べてそれぞれの良さを学んだりした。それらの学習と関連付けて、「国」を学年全体で取り組んだ。日本を日本の側面だけから見るのではなく、世界と比較して見ることの大切さを考えることができた。

○『心のあしあと』より

- ・今の日本は良い面がたくさんある一方で、悪い面もあると改めて感じた。ただ、それは他の国を知ってその国々を比較しているのではなく、あくまで自分の基準によるものだということを受けて、まわりのことを知ること大切だと思った。
- ・どこの国にも文化があり、その大切さを知り、文化を受け継いでいくべきだと思った。
- ・日本だけでなく、他の国についても知り、考えて、客観的に判断できるようにしたい。

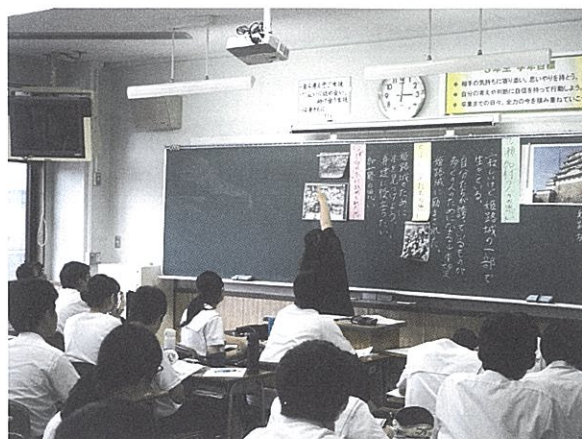


三年生は、総合的な学習の時間で二年時には「金沢」について学び、三年時には「金沢」に対して提言を行うという取組を行っている。また、国語と音楽の授業では「能・狂言」について連携して学習し、金沢市が行っている観能教室をそれらと関連付けて学んでいる。それらの学習と結び付けて、「運命の木－姫路城の大柱」を学年全体で取り組んだ。金沢市で戦後まもなくから続いている観能教室と姫路城の改修を結びつけることは難しかったが、その価値や継承していく理由や継承

に必要なことなどを考えることができた。

○『心のあしあと』より

- ・ 伝統の中に大切なものや人々の感情が同じように引き継がれていくのだと感動した。
- ・ 伝統文化の意味は文化の多様性を守ること。そのためには設備、知識、人材、資源、技術が必要である。
- ・ 伝統文化を継承する意味は、昔の人々の技術や知恵を学び、今や未来の発展に生かしていくためであり、自分の国の伝統文化を継承し、知ると、他の国のものも認められる。
- ・ 私は伝統が継承できるのは新しいものが生まれてよりよい形に物事が変わっていけるからだと思う。その為に必要なのは、それを「残したい」と思って行動することなのではないか。
- ・ 古くから伝わる技術や工夫を現在に利用していくため。そのために必要なものは技術や工夫を継承する人や材料となる自然を残しておくことが必要。



実践事例

道徳 1 年

授業者 上野 郁子		授業日 9 月 7 日(金)
授業クラス	1 年 4 組	関係・連携の考えられる教科等 社会・音楽・家庭・英語・総合
<p>授業内容(主題設定理由)</p> <p>“いしかわ”はオーストラリア人である筆者が、自国とは異なる日本(石川)の文化に触れることで驚いたり、感銘を受けたりしたことをインタビュー形式で書いたものである。筆者が、日本人と関わり、日本の文化への理解を深めていることに気づかせることができる。</p> <p>“ISHIKAWA”は、ロシアにホームステイした生徒の作文である。筆者が、ロシアのホストファミリーと関わることを通して、日本文化をしっかりと見つめ直し、理解することが大切であることに気づく。また、外国の文化を吸収しようとする思いを理解することで、世界の中の日本人としての自覚をもつことの大切さに気付かせる資料である。どちらも国際的な視野と国際社会で生きていこうとする実践意欲をもたせることができ、どの国の人とも同じ人間として尊重し合う気持ちをもたせることができる資料である。</p>		
<p>教科等で身に付けたい力(本時について)</p> <p>郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 【Cー(16)】</p>		<p>育成したい資質・能力</p> <p>③文化の伝承・創造への主体性など</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本や石川県の文化について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生に、石川県(金沢市)の良さを伝えるとき、あなたは何を紹介するか。 <ul style="list-style-type: none"> 観光名所(兼六園、尾山神社、白山、21世紀美術館) 伝統工芸(金箔、友禅、和太鼓、能)など → 有名だから。美しいから。昔からの伝統だから。 それらを残していきたいか。(心情円盤) <ul style="list-style-type: none"> ※自分はそれらに興味があるか。外国の人にその良さはわかるか。などをたずねることで、問題意識をもち、自分との関わりとしてとらえて考えるように促す。 資料「外国の人から見た“いしかわ”のよさ」を読んで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ジャスティンさんは、石川県(金沢市)の良さは何だと言っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手を尊重する気持ち。(お辞儀) ・来客への心遣い。(打ち水、花を飾る) ・譲り合い、思いやりの精神。(雪かき、道路、方言) ・金沢の四季(浅野川の風景) 生徒作文「静の内にある力強さ」を読んで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ジャスティンさんがあげた石川県(金沢市)の良さは[静] [動]でいうとどちらか。 <ul style="list-style-type: none"> 例) あいさつ ・日本…お辞儀、会釈 → [静] ・オーストラリア…ハグ、握手 → [動] ※[静] [動]それぞれ、どんなイメージがあるか考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・[静] 地味な感じ。おとなしい感じ。目立たない。暗い。 ・[動] 明るい感じ。楽しい。プラスのイメージ。 ○私たちの生活の中に「静の内にある力強さ」はどこにあるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことがあっても、辛抱強く支え合う。 ・海外のように大きなジェスチャーはできないけど、会釈は必ずする。 日本の良さをどのように受け継ぎ、発信していくかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○石川県(金沢市)の良さを残していきたいか。(心情円盤) <ul style="list-style-type: none"> ※導入での心情円盤のパーセンテージと比較し、その変容の理由をたずねる。 ※多様な変容の理由を聞くことで、多面的思考を促す。 ○石川県(金沢市)の良さを広げていくために何ができるだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと石川県(金沢市)のことを知り、海外に発信していく。 ・石川県(金沢市)の言葉や物を使っていく。 ※異なる見方や考え方を出し合いながら、協働でよりよい方法を考えさせる。 私たちの道徳を読む。 <ul style="list-style-type: none"> 優れた日本の伝統と文化を受け継ぎ、新たな文化を創造し、日本(石川、金沢)をそして世界を発展させるために、何ができるかを考えさせる。 		

実践事例

道徳2年

授業者 鏡 千佳子		授業日 9 月 7 日(金)
授業クラス	2 年 1 組	関係・連携の考えられる教科等 社会・音楽・総合
授業内容(主題設定理由)		
<p>世界のホームラン王となって野球界に多大な功績を残し、いまなお絶大な人気を誇る王貞治氏の国に対する考え方から、ねらいに迫るものである。中国人の父と日本人の母との間に生まれ二つの祖国をもつ筆者(王貞治氏)が、国を愛する気持ちや国とのかかわり方について、自己の体験をもとに素直な気持ちを吐露している。国籍にこだわらず生きようとする筆者の祖国観に共感し、だれの心の中にもある祖国愛に気づくとともに、それを通して広く世界の人々を理解し国際社会に生きる日本人としての自覚を高めていける資料である。</p>		
教科等で身に付けたい力(本時について)		育成したい資質・能力
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 【Cー(17)】		②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
授業のポイント・流れ		
<p>1. 国民栄誉賞を貰った王さんの気持ちを考える。(10)</p> <p>「第一回の国民栄誉賞を貰ったことについて、王さんはどのように感じているのだろう」</p> <p>○国籍を超えて、野球を愛し応援してくれる日本のファンに対する王さんの気持ちを理解させる。</p> <p>2. 国に対する王さんの考え方について意見を述べる。(20)</p> <p>「王さんの国に対する考え方についてどんなふうに思うか」</p> <p>○自分や自分を育ててくれた国への謙虚な気持ちを理解する。</p> <p>「みんなは日本に対してどう思っているかな」</p> <p>○導入で出してもらった意見を参考にしながら、それは何を基準にして言っているのかを考えさせる。</p> <p>○他の国のことをどのくらい知って言っているのか聞く。</p> <p>○みんなが日本のよさだと思っているところは本当にそうなのかな。</p> <p>3. 伝統文化教育について考える。(10)</p> <p>「なぜ学校で伝統文化を学んでいるのだろう」</p> <p>○グローバル社会という言葉をよく耳にすると思うが、日本の伝統文化を学ぶだけでいいのかな。</p> <p>○伝統文化を学ぶということは日本のことを学ぶということに留まらず、それと同時に世界を知り、日本を客観的にみるということにもつながっているね。</p> <p>○日本のことだけを知っているだけでは足りない。でも日本のことを知らないと世界と比べられない。</p>		

実践事例

道徳3年

授業者 早谷 憲子		授業日 9 月 7 日(火)
授業クラス	3 年 4 組	関係・連携の考えられる教科等 国語・音楽・総合
授業内容(主題設定理由) 能や茶道、華道、工芸など、様々な分野で伝統文化が受け継がれている金沢に位置する本校で生徒たちは学んでいる。伝統文化を継承するということはどういうことか、また、継承するにはどうすればよいのかを姫路城改修にかける先人たちの様々な思いに触れながら考える機会として本時を展開したい。		
教科等で身に付けたい力(本時について) ・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度【Cー(17)】		育成したい資質・能力 ③文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ		
1 「伝統」という言葉のイメージを考える。(4) ・古い ・重い ・守っていかなければならない など 「観能教室」における生徒たちの感想を聞く。 ▽鑑賞前の「能・狂言」に対する印象 ・正直、おもしろいと思うことはないのだろうと思っていた。 ・地味でつまらないなという印象しか抱かなかった。 ○鑑賞後の「能・狂言」に対する思い ・初めて見る能楽の迫力に圧倒された。 ・僕にはまだ幽玄の世界はまだ早かったようだ。		
2 姫路城の写真を見せ、知っているかどうか確認し、本文を読む。(14) ・行ったことがある。 ・世界遺産になっている。 など		
3 ご神木を譲る決断をした瀬加村の人たちの気持ちを考える。(5) ・姫路城に励まされたことを忘れてはいけない。 ・姫路城のご神木として使ってもらえることで、ご神木も大切にしてもらえる。 ・姫路城も自分たちにとっての宝だ。		
4 奥深い山に入る木曾の人たちの思いを考える。(5) ・加藤の姫路城再建にかける熱意に打たれた。 ・姫路城という日本の宝の大柱だからなんとしても見つけたい。		
5 「運命の木」に込められたみんなの思いについて考える。(7) ・絶対に再建をあきらめない。 ・姫路城を守り、後世にしっかりと残すという思い。 ・日本の宝を残すという情熱。		
6 自分の身の回りにある伝統文化を継承することの意味とそれらを継承するために必要なものは何かを考え、発表する。(10) [意味] ・アイデンティティーを守ること。 ・長い年月をかけて守ってきたものを次の世代へと引き継ぐこと。 [必要なもの] ・受け継いでいく人 ・技術 ・そのものにかかる熱意 など		
7 「心のあしあと」で授業を振り返る。(5)		